

演題名	回復期リハ病棟発信の住民運営型介護予防グループの立ち上げ ～地域住民と退院患者さんの居場所と出番をつくる～		
施設名	竹川病院	発表者(職種)	えんどう ゆうか 遠藤 侑加 (作業療法士)
チーム名	地域と関わり隊！貢献し隊！！		
取り組種別	課題達成型		
分類	③患者サービス・患者満足度の向上をめざすもの		
改善しようとした問題課題	現在の介護予防は、住民主体の地域づくりが重要とされているが、今までは指導者が主体的であり、住民は受け身的であった。スタッフが地域と関わる中で、竹川病院の知名度が低いことに気付いた。そこで、「竹川病院発信の住民運営型の介護予防グループをつくること」を課題とした。		
改善の指標とその目標値	(指 標) 当院を退院した方がいる住民運営型グループを立ち上げ、その活動がスタッフの介入なく住民だけで運営・継続できること (目標値) 1週間に1回開催		
実施した対策	地域と関わりをもつために地域活動に参加。病院祭での介護予防講演をチラシにて宣伝。さらにチラシや電話を通して参加意欲のあるメンバーを集いグループを立ち上げ。役割分担を促し、住民運営グループへ移行。また、モチベーションの維持のため、体力測定や個人カードの作成を実施。		
改善指標の対策実施前後の変化	(実施前) グループ事態がなかったため、活動はしていない状況 (実施後) 9月27日～12月20日まで毎週介護予防開催、10月25日～はスタッフの介入なく住民のみで9回開催することができた。また、16名の参加意欲のある方の中で当院を退院した患者さんは4名であった。		
歯止めと標準化	・竹川スタッフは気軽な相談相手となり、地域へ引き継ぐ為に対応の統一と竹川スタッフが、プログラム終了までに、相談時の記録ノートを作成しマニュアルを作る。 ・若竹会の活動を継続する為に、退院患者の居場所づくりと出番作りを若竹会が数か月に1回、チラシ作製、ブログへの掲載、家族会・病院祭でアピールする。		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動	チーム メンバー (職種)	1 遠藤 侑加 作業療法士 2 坂上 瑞奈 理学療法士 3 高橋 亮 作業療法士 4 土屋 宙嗣 理学療法士 5 横山 加恵 理学療法士 6 羽中田 賢 理学療法士 7 木下 崇美 理学療法士 8 茂内 暁子 理学療法士 9 小倉 裕介 事務 10 武田 知樹 事務
活動の場 ※複数選択可	④その他		
活動期間	平成 29 年 8 月 ～ 12 月		
リーダー名 (職種)	遠藤 侑加 (作業療法士)		
活動回数	10 回		

【現状把握】

- ・板橋区では住民運営型介護予防グループの立ち上げ支援を行なっている
- ・竹川病院の知名度が低い
- ・竹川病院発信で活動しているグループはない

【目標設定】

平成29年12月末までに当院を退院した方がいる住民運営型グループを立ち上げ、その活動がスタッフの介入なく住民だけで運営・継続できること

【要因解析】

- ・導入: 地域との関わりが少ない、介護予防の重要性を地域へアピールできていない
- ・発足/運営: メンバーがおらず、住民運営グループがない
- ・スタッフ: 自主グループに対してサポートできる体制が整っていない、経験がない

特性・項目		ありたい姿	現在の姿	ギャップ	課題の候補	評価項目 ギャップ職場の 解消 対応力		総合点	採否
特性	自主グループをつくる	病院発信で住民運営型の介護予防グループを作る	竹川発信で活動しているグループはない	100%					
特性を実現させる項目	導入	病院として地域活動に貢献する	病院の知名度が低い	100%	地域活動参加	◎	◎	10	採用
		介護予防を目的とした自主グループがある	介護予防の重要性を地域へアピールしていない	介護予防の認識が薄い	導入方法検討	◎	◎	10	採用
	発足	メンバーが集まる	メンバーがいない	活動できない	メンバーを集う	◎	◎	10	採用
	運営	介護予防グループで継続的に運営できる	メンバーがいない	自主グループがない	運営方法提示 自主化	◎	◎	10	採用
	病院スタッフ	介護予防グループをサポートができる	サポート体制が整っていない	経験がない	活動経過を追う	◎	◎	10	採用

【対策の立案と実施】

課題	方策案	特性・項目	効果	実現	持続性	重要性	総合評価	採否
導入方法を検討	病院として地域住民と関わりを持つ	地域イベントや町内会への参加 地域へ病院祭のPR	◎	◎	○	◎	18	採用
	介護予防の周知を図る	病院祭にて介護予防の講演を実施、介護予防に対する認識の薄さを解消する	◎	◎	○	◎	20	採用
自主グループメンバーを集う	興味のある人達へのアプローチ 手段の確保	講演後、興味のある人の連絡先を確保する	◎	◎	○	◎	18	採用
	グループの発足	実施曜日、時間、会場をチラシにて配布、後日電話にて再度連絡する	◎	◎	○	◎	18	採用
住民運営への移行	体操の手段を明確にする	体操資料を配布、自身で確認できるよう配慮する	◎	◎	◎	◎	20	採用
	グループ内の連絡手段を明確化	連絡網の作成し、グループ内のやり取りの円滑化を図る	◎	◎	◎	◎	20	採用
	グループ名、代表者の選定	グループ内での役割分担を明確にする	◎	◎	◎	◎	20	採用
	参加人数の確保	参加者名簿を利用し、参加者の割合をグループ内で把握する	◎	◎	◎	◎	20	採用
活動の経過を追う	グループの体操の効果、感想を確認	体力測定・アンケートで効果判定を実施、結果を提示する	◎	◎	◎	◎	20	採用
	院外活動の視察	院外の活動様子を把握する	◎	◎	△	△	12	不採用
	参加者名簿の確認	参加人数・回数を把握し、グループの継続を確認する	◎	◎	◎	◎	20	採用

評価点 ◎:5点 ○:3点 △:1点
※18点以上採用(平均点が18点の為)

【効果の確認】

9月27日～12月20日まで毎週開催し、10月25日～計9回はスタッフの介入なく住民のみで開催できた。また、住民各々が役割を獲得し、お互いに感謝し合う、余った時間での活動の提案、メンバーを増やしたいとの意見がきかれた。

【標準化と管理の定着】

項目	why	what	who	when	how
標準化	竹川スタッフは気軽な相談相手となり、地域へ引き継ぐため	対応の統一	竹川スタッフ	プログラム終了まで	相談事の記録ノートを作成しマニュアルを作る
	竹若会の活動を継続するため	退院患者の居場所と出番づくり	竹若会	数か月に1回	チラシ作成、ブログへの掲載 家族会・病院祭でアピール
管理	竹若会のモチベーション維持・向上のため	効果判定	竹川スタッフ	2～3ヶ月に1回	体力測定への参加確認
		経過の見える化	竹川スタッフ	2～3ヶ月に1回	個人カードの作成

【反省と今後の進め方】

今後、当院を退院する介護度の低い高齢者の方に対して、外出や他者とのつながりの機会として提案。友人への紹介からさらに竹川病院の知名度が拡大することを期待する。高齢者の居場所と出番の提供から、元気な地域づくりへつながると考える。